

## 喬木村立喬木中学校



(1) 学級数 9学級

(2) 児童・生徒数 172名

(3) 職員数 29名

(4) 学校紹介 <https://sites.google.com/vill-takagi.info/jhtakagi/>

喬木中学校は、昭和22年(1947年)に開校し、昭和59年(1984年)に現在の地へ移転した。今年度で開校78年を迎える。学校教育目標を「自主・自律」とし、目指す生徒像を「自ら考え、決定し、行動する喬木中生徒」としている。本村では、10年以上前(GIGA school構想が始まる前)から一人一台端末を実践し、毎日持ち帰り、デジタルシチズンシップを育ててきた。

### (5) 日常的な情報機器の活用

#### ①学校生活全てにおいてChromebookを活用

全ての授業や生徒会活動で、Chromebookの活用を展開している。共同編集しながらお互いの意見を交流さ



【音楽の授業での意見交換】

せたり、友だちの考えを見て対話しながら自分の考えを深めたりするなど、教科によって使い方は

様々であるが、生徒にとって学びを深めるツールとなっている。

保健体育の授業では、自分で学習を計画的に進めることができるように学習カードを作成し、自己調整しながら学習を行っている。自分の計画の達成度や進捗状況の確認、動画の提出などを一元管理できるように設定し、生徒が自分で考え、決定し、行動する授業を実践している。

英語の授業では、生成AIを活用して会話や英文を学んでいる。アプリ内の様々な人物と会話することで、英語を日常的に使うことが当たり前になるように取り組んでいる。



【英語の授業でAIと会話】

#### ②学友会ポータルサイトの活用



【左：喬木中ポータルサイト 右：生徒会ポータルサイト画面】

本校では、学友会(生徒会)活動の情報をポータルサイトで共有している。このサイトは学友会が運用し、月の目標や毎日の予定、各種お知らせや家庭向け通信なども掲載している。学友会総会の議案書や会則等も、誰もがいつでも見ることができる状態になっている。「自主・自律」の学校教育目標実現に向け、生徒が自ら創り上げるポータルサイトの利活用を進めていく。

### (6) 課題等

ツールとしてのICT機器を日常的に上手に使いながら、生徒たちが自ら考え、決めて、行動できるような学校の環境づくりに努めていきたい。しかし、このようにICT機器の積極的な活用を進める中で、メディアリテラシーに関わる課題も散見される。その中で、デジタルシチズンシップを育むことを大切にしていきたい。